

2025年度(令和7年度)

わたしと人権

第49回 人権標語・ポスター・作文・詩等作品集

人権を守る大津市民の会



はじめに

今年度、滋賀県では「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」が開催され、大津市でも多くの競技が行われました。障がいの有無にかかわらず、一所懸命に汗を流す人々の姿は多くの感動を呼びました。スポーツをすること、見ることに、支えること、また人と人がつながることの素晴らしさを感じる良い機会となったのではないのでしょうか。

また終戦から八十年が経ち、平和の尊さや生命の大切さについて改めて思いを馳せる一方で、世界では戦争や紛争等により生きる権利さえも脅かされている人々があります。自身がマイノリティであるが故に生きづらさを感じている人々がいます。私たちはこれらの事実にも目を向けなければなりません。人が人として幸せに生きる権利である「人権」が尊重される世の中をつくっていくことが、私たちの使命です。

「人権を守る大津市民の会」では、人権啓発活動を中心に置いた活動を行っています。この「わたしと人権」の取組も、その一つです。今年度、第四十九回を迎えた作品募集には、市内学校園から一般の方まで幅広い市民の皆様から、三万点を超えるご応募をいただきました。応募された作品からは、作者の方々の一人ひとりが、作品づくりにおいて人権をテーマに考えを巡らせておられたことが伝わってきます。この冊子から、その思いを感じ、改めて人権の大切さについて考えていただければ幸いです。

当会としても、人権が尊重される豊かで明るい地域づくり、すべての人が「大津に住んで良かった」と思えるようなまちづくりに寄与できるよう、今後も努めていきたいと思えます。結びになりますが、ご応募をいただきました市民の皆様、ならびにご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

二〇二六年（令和八年）二月

人権を守る大津市民の会 副会長 中村克己

もくじ

はじめに	2
標語の部	6
ポスターの部	14
作文の部	24
詩の部	29
その他の部	33
審査結果	34
あとがき	

「わたしと人権」の特別賞のネーミングは、市民の皆様により親しんでいただけるように「大津市民憲章」のイメージを生かしています。

- ◆ほのぼの賞：郷土を愛し琵琶湖の美しさをいかしましょう
- ◆すこやか賞：健康で明るい生活につとめましょう
- ◆ふれあい賞：あたたかい気持ちで旅の人をむかえましょう
- ◆ときめき賞：豊かな文化財をまもりましょう
- ◆さわやか賞：時代にふさわしい風習をそだてましょう

標 語

標語の部 講評

標語の部には、二〇、〇〇〇点を超える応募があり、高等学校・一般からの作品が増えました。人権をテーマに自分の思いを自分の言葉で表現する標語には、温かさや力強さがあり、審査している私たちが、強く励まされているような思いを感じながら読ませていただきました。

小中学校での作品には、特に、多様性について書かれているものが多く目立ちました。自分と他の人との違いを認め、互いに励まし合うことの尊さを力強く表現している標語がたくさんみられました。各学校で、多様な観点を大切にした指導がなされているのが伺えると共に、各ご家庭でも、人とのふれあいを大切にされている姿が伝わってきました。

だれもが、住みやすい、住みたくなる地域
社会の構築は、まずは、人と人とのつながりであると改めて考えさせられる審査会でした。

みなさんに「ありがとう。」と伝えたいです。

《特別賞》

ほのぼの賞

友だちと かぞくはいつでも そばにいる

小野小学校 二年 岩本桜クロエ

すこやか賞

ありがとう たった五文字の おまじない

皇子山中学校 三年 矢橋麗嘉

ふれあい賞

信じあい お互い様の 心がけ

瀬田東小学校 六年 堀 詞人

ときめき賞

みんなが持つてる自分の個性

みんなで認める他人の個性

打出中学校 一年 藤田紗羽

さわやか賞

十人十色 いらない色は ないんだよ

田上小学校 五年 糸井 怜音奈

△以上 特別賞 五点▽

《特選》

ともだちと すべりだいして いい気もち

大丈夫 こまったら いつでも言つて 逢坂小学校 一年 岡澤嶺楽

幸せは みんなとともに いきるため 瀬田小学校 二年 山崎蒼志

辛い気持ち 私に半分持たせて 半分こ 富士見小学校 四年 国本彩希

比べない 自分の持ち味 のばすんだ 日吉台小学校 五年 関 友莉那

パレットに かがやく絵の具 君の色 下阪本小学校 五年 鶴川湊太

決めつけが 誰かの心 締め付ける 田上小学校 五年 高野由宇

おしのけないで、それぞれの『あたり前』 北大路中学校 二年 坂辻杏莉

支えていこう、それぞれの『あたり前』 志賀中学校 三年 東原あい

進んでいこう、それぞれの『あたり前』 比叡山中学校 二年 四方葵生

見てみよう その国じゃなく その人を 仰 木 一般 小 鐘 敏子

「お蔭様」「お互い様」はここち良し 仰 木 一般 小 鐘 敏子

△以上 特選 十点▽

《佳作》

にっこのり の きみをみてたら あれ?!ほくも

葛川小学校 一年 内藤 詩葵

「いっしょにあそぼう。」

さびしそうなおもだちがいたら いってあげたいな

仰木小学校 一年 西村 陽莉

ありがとう おりづるくれて うれしいな

比叡平小学校 一年 上野 光莉

大じょうぶ いっしょにあるくと げんきでる

石山小学校 一年 清水 美千琉

よかったね ともだちゆうしゅう おめでとう

青山小学校 一年 竹爪 晴琉

ありがとう やさしいひとは すぐそこに

和邇小学校 二年 小北 ひかり

どうしたの?と気づけるわたしになりたい

堅田小学校 二年 浦野 羽咲

自分から えがおでおはよう あいてもえがお

膳所小学校 二年 新城 朔久

あたたかい 言葉毎日 ありがとう

小松小学校 三年 長尾 結

温かい みんなの笑顔 たいせつに

仰木の里小学校 三年 北野 結

こまったら いつでもきいて ほくがきく

仰木の里小学校 三年 長谷 啓汰

わたしたち ちがう思いを 大切に

雄琴小学校 三年 大下 明莉

言う前に 考えてみよう その言葉

長等小学校 三年 グエンチャンフォンマイ

君が笑うと みんなが笑う 幸せだ

晴嵐小学校 三年 富田 愛

ちがうところ 一つ一つが 君の個性

伊香立小学校 四年 松井 葵

こせい光る いろとりどりの まちのよさ

真野小学校 四年 山崎 一二三

「やっちゃだめ」ちゅういができる その力

唐崎小学校 四年 下谷 優紀子

大切な ひとりひとりの 自分らしさ

中央小学校 四年 松本 藍羽

さしのべよう 思いやりの手 さりげなく

鑿美塾 鷹鷹 鷹鷹 四年 石黒 心美

わすれずに 自分が知らない 相手の気持ち

坂本小学校 五年 中野 風理

このクラス あなたがいないと さみしいよ

平野小学校 五年 赤坂 結香

芽ばえたよ 心のきずな つながった

大石小学校 五年 飯沼 美波

正直で うそをつかず 前向きに

瀬田南小学校 五年 青山 純々愛

本当に 笑っているかな その心

瀬田北小学校 五年 山元 瑞貴

包み込む あなたの心 優しくね

木戸小学校 六年 高見 ことの

ありがとう その一言が ありがとう

真野北小学校 六年 木原 佑

否定しない みんなの価値観 分かり合おう

志賀小学校 六年 奥村 里桜

言葉の矢 みんなのちからで はねかえせ
 藤尾小学校 六年 三谷 遼也
 わたしは平気 相手は平気？ 考えて
 南郷小学校 六年 下遠 菜月
 笑う顔 あなたの心を よくみせて
 上田上小学校 六年 山崎 杏紗
 話してね 困っているなら 助けるよ
 瀬田小学校 六年 米田 柚希
 みんな ちがう色をもってる 私は私
 瀬田北小学校 六年 有賀 菜々花
 一人一人 心にきざむ 思いやり
 葛川中学校 一年 高野 比奈子
 それぞれの 個性があつて 成り立つ世
 真野中学校 一年 木村 聖也
 心の傷 薬を飲んでも 治らない
 堅田中学校 一年 中谷 咲希
 個性とは 世界で一つの 僕の色
 粟津中学校 一年 大村 亮人
 普通って 誰が決めたの 基準なし
 青山中学校 一年 丁野 楓真
 何言われても あなたは世界に 一人だけ
 瀬田北中学校 一年 連 あさひ
 認めてね 私は私 あなたじゃない
 日吉中学校 二年 林 朱莉
 その勇氣 周りを動かす 第一步
 唐崎中学校 二年 寺谷 叡人
 「大丈夫！」 心は本当に 大丈夫？
 皇子山中学校 二年 水本 彩音

さりげなく 思いやりの手 さしのべよう
 石山中学校 二年 金丸 月乃
 いつだって 自分の色を さがす旅
 南郷中学校 二年 二上 大雅
 生きる権利 あなたと私 平等に
 田上中学校 二年 鈴木 柊子
 みんなそう この世のだけれどもが 主人公
 瀬田北中学校 二年 山崎 悠夏
 支え合い 理解の先に 幸せを
 伊香立中学校 三年 白川 花衣
 知ることが 世界と向き合う 第一步
 仰木中学校 三年 尾関 真優
 優しさは 回り回って また君へ
 打出中学校 三年 林 万梨愛
 ありがとう 人がつながる 合言葉
 瀬田中学校 三年 藤木 愛琉
 話そうよ 心の声を 打ち明けて
 北天津高等学校 一年二組 共同作品
 守りたい 笑顔の続く この街を
 天津商業高等学校 一年 古川 心音
 笑う裏 泣いてる心 気づいてよ
 膳所高等学校 二年 林 昂
 ひと言で 人生変わる 事もある
 仰木 一般 山本 綾子
 SNS 信じていいの？ その情報
 比叡 辻 一般 猪飼 尚子
 認め合い お互い生かす 多様性
 丸の内 一般 保田 勝

^以上 佳作五十五点V

ポスター

ポスターの部 講評

今年度のポスターの部には三歳児から高校生の方までの多数の応募をいただきました。

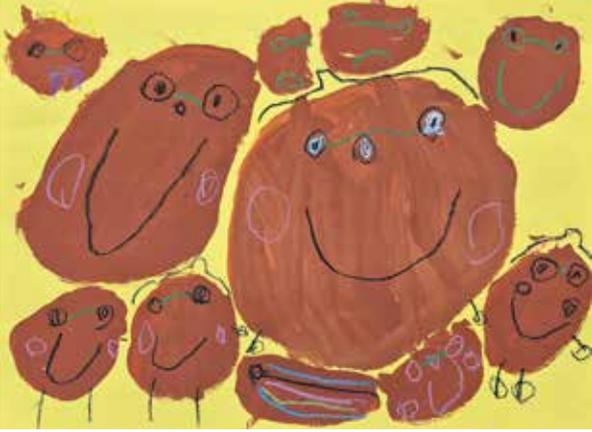
保育園・幼稚園・こども園からの作品には日常の活動だけではなく、植物や動物をテーマにした作品が多くありました。子どもたちが、周りの友だちや物事との関わり合いを大切に、毎日充実した日々を過ごしている様子を感じる作品ばかりでした。

小学校の作品には、「人との関わり」を表現した作品が目立ちました。低・中学年では、学習をテーマにした作品が多く見られました。また高学年では、人とのつながりを具体的なメッセージとして伝えることができました。

中学校・高等学校の作品では、高い技術を発揮した作品がありました。見る人に訴えかける「これからの未来を築いていくのは自分たちだ」という熱い思いを感じられる作品には胸をうたれました。

どの作品からも、「協力」や「支え合い」の重要性を感じることができました。

《特別賞》



【ほのぼの賞】
志賀北幼稚園 4歳児 澤 乙葉
「どんぐりのかぞく」



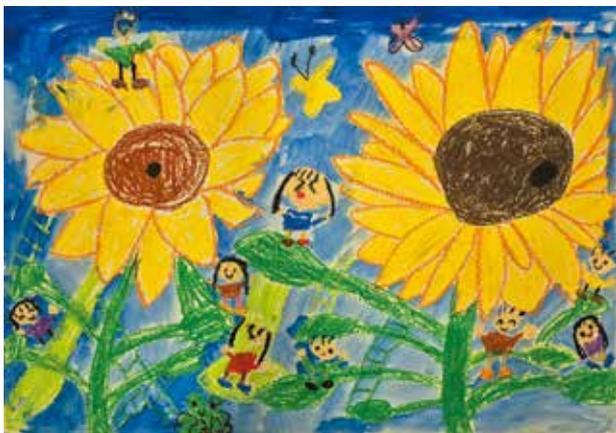
【ときめき賞】
膳所幼稚園 5歳児 細川 葉菜
「幼稚園の木のうでにおにごっこ」



【すこやか賞】
瀬田小学校 1年 中谷 愛梨
「なかまといっしょに大ぼうけん！」

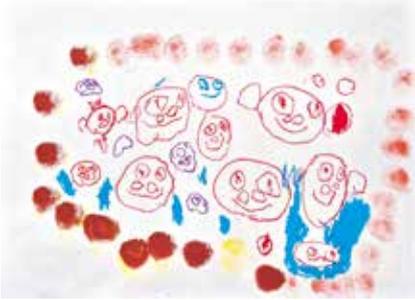


【さわやか賞】
滋賀大学教育学部附属小学校 5年 日下部 璃衣
「それぞれの色が織りなす輝く未来へ」



【ふれあい賞】
和邇小学校 1年 松井 琴望
「ひまわりとなかよしともだちにここに」

《 特 選 》



大石幼稚園 3歳児 廣澤 希碧
「みんなにここにこたのしいおんせん」



堅田幼稚園 5歳児 八島 学斗
「みんなでバルーンをするのが楽しかったよ」



瀬田北小学校 1年 松田 紬希
「たのしいおもほり」



坂本幼稚園 5歳児 村田 彩羽
「どんぐりさんたちのたのしいおまつり」



南郷小学校 1年 松尾 百華
「くじらぐもとみんながにここにこ」



瀬田東小学校 2年 小川 夏生
「せかい中で一番なかよし」



上田上小学校 4年 金子 桜紀
「自分の花」



田上小学校 4年 小谷 紗月
「大切に一つ一つのみんなの笑顔」



日吉台小学校 6年 渡邊 瑠衣
「笑顔の花を届けよう」

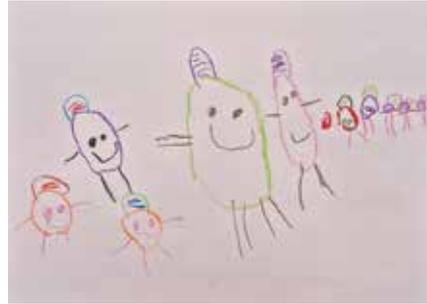


大津商業高等学校 2年 浅村 公一朗 横井 亜美
「手に余る程の優しさを」

《 佳 作 》



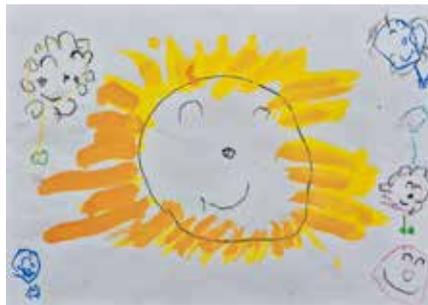
堅田幼稚園 3歳児 渡辺 糸音
「どんぐりころころおでかけに行くの」



大津幼稚園 3歳児 石田 莉々依
「どんぐりちゃんがなかよくおどっているよ」



膳所幼稚園 3歳児 角野 咲菜
「なかよしどんぐりのおともだち」



瀬田東幼稚園 3歳児 奥村 凪
「ひまわりにここにこみんなでここにこ」



仰木の里幼稚園 4歳児 藤本 琉弥
「おかあさんとみんなでおにごっこたのしいな」



下阪本幼稚園 4歳児 山下 莉央
「ともだちいっぱいのかえるさん」



富士見幼稚園 4歳児 宮村 颯真
「家族と友達と一緒におおきなかぶをひっぽっているよ」



大石幼稚園 4歳児 垣寄 茉鈴
「ともだちといっしょにあそんでいたらちようちやがやってきたよ」



青山幼稚園 4歳児 所 滢里
「みんなでぼかぼかあたまろう」



永興藤尾こども園 4歳児 兒島 愛依
「大好きな私の家族」



逢坂幼稚園 5歳児 池口 遼紀
「みんなでほしのみをあつめよう」



大石幼稚園 5歳児 桐畑 柚妃
「みんなてをつないでまのこべつでねているよ」



真野幼稚園 5歳児 シャヤン・カーン
「友達と一緒に大きなおもいがほれたよ」



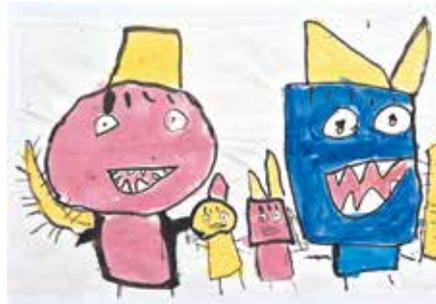
大津幼稚園 5歳児 山田 啓仁
「ちょうちょうが仲良くお空を散歩しているよ」



田上幼稚園 5歳児 藤木 康大
「みんなのおうちどんどん大きくなって太陽までとどくよ」



上田上幼稚園 5歳児 松井 雄大
「ともだちがいるときみしくないね」



瀬田幼稚園 5歳児 木下 陽葵
「あかおにとあおおにのタンゴ」



青山幼稚園 5歳児 石原 侑一郎
「『とうもろこしぬぐぞう』といっしょにあそんだよ」



瀬田東幼稚園 5歳児 片山 新
「ぼくたちマグマドラゴンチーム」



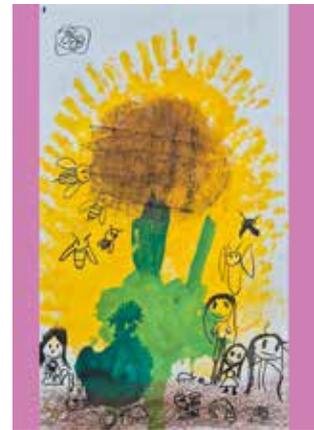
瀬田北幼稚園 5歳児 三五結利加ヘーデリー
「ほしぐみみんなでおおきなぼーんをしたよ」



比叡平こども園 5歳児 栗田 杏子
「みんながリレーをおうえんしてくれてうれしかったよ」



永興藤尾こども園 5歳児 村上 凜花
「山頂めざしてがんばるぞ！」



学園前こども園 5歳児 舩本 伊織
「みんなともだち」



永興富士見こども園 5歳児 白瀬 健人
「みんなであそんでたのしいな」



日吉台小学校 1年 石原 藍
「お日さまのたん生日」



坂本小学校 1年 杉浦 穂乃佳
「たのしいすいぞくかん」



坂本小学校 1年 辻本 琴
「みんなでたべるとおいしいね」



長等小学校 1年 富永 杏
「いんこのまちでそらをとぶ！」



唐崎小学校 1年 浅田 暖斗
「みんなでちびっ子モンスター」



唐崎小学校 1年 朝日 悠衣
「なかよしこよし」



富士見小学校 1年 作島 莉子
「おもいぬき」



南郷小学校 1年 藤沢 あかり
「くじらぐもの上でおんがく」



瀬田小学校 1年 織田 朔玖
「みんなであそんでたのしいな」



瀬田東小学校 1年 笠井 千寛
「みんなでパーティー」



瀬田北小学校 1年 岡田 心
「たのしいフルーツパーティー」



瀬田北小学校 1年 松田 茅佳
「空の旅に出発だ」



真野小学校 2年 中谷 圭佑
「ありがとうがいっぱい」



真野小学校 2年 藤田 栞湊
「みんなえがお」



唐崎小学校 2年 谷内 那紗
「やさしいともだち」



南郷小学校 2年 岩本 楓花
「動物たちと遊ぼう」



瀬田東小学校 2年 藤森 律花
「平和な世界」



坂本小学校 3年 村田 さくら
「みんなにやさしくふわふわことば」



膳所小学校 3年 只井 梨乃
「人権ポスター」



南郷小学校 3年 田中 柚羽
「私の大好きな夢の世界」



南郷小学校 3年 堀井 めぐみ
「みんなにぎやかみんな仲よし」



瀬田東小学校 3年 谷本 明莉
「みんなちがう」



田上小学校 4年 高橋 花奈
「人に合わせなくていいんだよ君は君だから」



日吉台小学校 6年 西村 紬
「自分らしく生きろ」



上田上小学校 6年 朝重 朱梨
「当たり前なんてないんだよ」



瀬田小学校 6年 篠原 凜佳
「仲間といっしょに」

作文

作文の部 講評

作文の部では、今年度も市内小中学校、並びに高等学校、さらに一般の方も含め二、〇〇〇点を超える応募がありました。

小学校低学年では、学校生活の中において、友だちとの会話や行動の中にうれしさや悲しみを感じている様子が伺われました。中学年になると、いじめの防止や障がい者支援など、具体的な行動が芽生えていくように感じました。さらに高学年では、災害時や戦争での人権といった視野の広がりがありました。

中学生になると、相手の気持ち、人の悲しみへの気づきを大切に考え、積極的な行動へ繋がっています。

高校生では、色々な人権問題に対し、歴史的な背景など深く検証し、差別事象などをはじめ各人権問題解決に向け、しっかり取り組んでいこうという決意が読み取れました。

子どもたちは日常生活の中で喜びや悲しみを多く経験しています。大人たちが想像する以上に差別や不合理に対し、敏感に心が揺らいでいる様子を感じていただければと思います。

《特別賞》

ほのぼの賞

「正義とぼく」

逢坂小学校

五年 逸見 亮太

すこやか賞

「苦手があるってダメなこと?」

瀬田東小学校

五年 柴林 知佳

ふれあい賞

「障がいのある人もみんな同じ」

藤尾小学校

四年 黒部 陽希

ときめき賞

「友達の大切さ」

長等小学校

六年 森 真優

さわやか賞

「黙過と無関心」

東大津高等学校

三年 谷津 夕子

△以上 特別賞 五点▽

《特選》

「いじめにつながる行動」

藤尾小学校

四年 岡部 咲歩

「はげまし」

長等小学校

五年 服部 壮良

「無意識の差別に気付く」

堅田中学校

一年 田辺 紗彩

「友達」

田上中学校

一年 小谷 紗也香

「ブラインドマラソンランナーについて」

東大津高等学校

三年 高井 花怜

△以上 特選 五点▽

《佳作》

「このせきどうぞ」

滋賀大学教育学部附属小学校

四年 辻 陽菜乃

「命の大切さ」

長等小学校

五年 徳谷 彩乃

「命を助けてくれたあなたへ」

滋賀大学教育学部附属小学校

五年 伊勢村 杏奈

「助け合いの心が守る未来」

長等小学校

六年 田丸 舞

「みんなの想い」

田上小学校

六年 南 結太

△以上 佳作 五点▽

正義とぼく

逢坂小学校 五年 逸 見 亮 太

ぼくは、ヒーロー映画が好きです。ヒーローは、世界を救うために戦います。仲間を見捨てず思い合って、最後までどんなことがあってもあきらめずに戦い、正義のヒーローとなります。観ている勇気をもらったり、かっこいいなとぼくもだれかを助けたり、そんな人になりたいと思うからです。

だけど、ぼくたちが生きている社会に目を向けると争い事がたくさん続き続いています。今一度、正義とは何なのか、正しいことをするとは何なのか考えようと思いました。

ぼくたちの生活の中でルールや規則はたくさんあり、それを守ることは大事です。学校生活の中でもルールや規則を守らなかつたりすると、お互い注意し合うのはとても大切なことだと思えます。

ですが、日頃クラスの仲間や友だちと意見のちがいや、やってはいけないなあと思うことがあると注意をすることがあります。そんな時、自分の意見が全面的に正しいと思ひ伝えることがあります。仮にぼくが、正しいことを言っていたとしてもどんどんヒーロートアップして、こうであるべきだと自分の正しさを押しつけて言っているのではないかと感じるようになりました。自分は、正しいことを言っているのが当然だと、それが正義だと思っているのかもしれない。

道徳の授業で、自分の伝え方によって相手のとらえ方がちがうことがあると習いました。

自分が良いと思ってしまうことが相手にとって悪いことに感じてしまっているのかもしれないと思いました。

インターネットやSNSで、これが正しい、これが間違ってると個人をこうげきして、炎上や誹謗中傷をすることが問題になっていきます。学校でもささいなことからかけ口や悪口に変わって、それが不登校やいじめの原因にもつながってしまいます。戦争も自分の国が一番正しいと思ってしまうとその正義を守ろうとてなかなか終わることができません。

ぼくは、正義をふりかざして何を言っても許されるわけではないと思います。意見のちがいや対立があってもすぐに間ちがつているとは決めつけず、お互いに話を聞いて認め合って受け入れることが大切だと思います。そして、人は命や心があるんだから常に耳をかたむけて、いつでも寄りそえる人になりたいと強く思いました。これがぼくが思う正義だと考えます。

道徳の授業で自分のことをふり返ることができて良かったです。

苦手があるってダメなんじゃない?

瀬田東小学校 五年 柴 林 知 佳

私は、勉強や運動で得意な人と、苦手な人とで区別することは、いけないことだと思います。理由は、ある出来事がきっかけで得意と苦手と区別することは、ダメだと気付いたからです。

私は、そのとき体育の授業をしていました。小学四年生の時です。マット運動をしていました。そのマット運動は、体育の中でも特に苦手で、頭がモヤモヤしてばかりいました。

マットは、班ごとで分かれていて、順番を決めていました。

私は、

「五番にしたい。」

と、言いました。それを同じ班の人は、受け入れてくれました。みんなとても上手で、いいなと思いつつも順番を待っていました。そして私のやる番がきました。私は、マットの上で前転をしました。すると、失敗してしまいました。私は、あーあと思いつつも、列に戻ろうとしました。すると、同じ班の人が何気ない一言を言ってきました。その一言は、私にとっては傷つく言葉で、私はくやくやく悲しくて、泣いてしまいました。それから、少しして、友だちになぐさめてもらって気分が落ち着いた時、さっきの人が、

「ごめん。」

と、あやまってくれました。私は、ずっとその一日モヤモヤしま

した。だって私は、マット運動は、体育の中でも特に苦手なのだから、失敗しても大丈夫だと思わないのかな?とっていました。

私は、下校中、あることに気がきました。苦手があるのなら、得意だってあるのかもしれない。私だったら、体育と算数が苦手で国語と図工が得意。友だちだったら、勉強が少し苦手で、運動が得意。もしかしたら、苦手がない人なんていないのかもしれない。逆に得意がない人もいないのかもしれない。きっと世の中は、苦手と得意がみんなあるから、成り立っているんだ。いらぬ人なんていない。むしろ、みんなが必要なんだ。だから、苦手があることは、ダメなことじゃない。むしろ、いいことなんだ。そう、思いました。

それから私は、友だちのことを絶対笑ったり、バカにしたりしないとかいきました。そう、笑ったり、バカにしたりするんじゃないかと、むしろ、はげましたり、応えんしたりすればいいと思いました。

「大丈夫。」「がんばって!」という言葉をややと思う人はいないとも思いました。その「大丈夫。」「がんばって!」という言葉は何か失敗した人に、私は言いたいと思います。このように、私は得意と苦手で分けたらダメだと思います。なぜなら、苦手があるということ、ダメなことではないからです。

特別賞 ● ふれあい賞

障がいのある人もみんな同じ

藤尾小学校 四年 黒 部 陽 希

ぼくは学校で福しの勉強をする中で、障がいのある人はどのようにしてほしいか気になり考えてみました。障がいのしゅ類は色々あります。「体」「のう」「目」などです。ぼくはこの中でも、「のう」と「目」に障がいのある人について考えました。

ぼくのお姉ちゃんは少し「のう」のきのうが弱くて、養護学校に通っています。いつも助けているのですが、「本当にそれでいいのかなあ。障がいがあるから特別にやさしくしてほしいのかなあ。」

と考えました。みんなと同じようにふつうにくらしたいとは、ぼくは考えてもいませんでした。以前にあった目の見えない方もふつうにしてほしいと話されていました。でも助けてあげたい気持ちも、すごくあります。だからむずかしいところですが、おたがいにいたわりあってすごしていけば、障がいのある人もみんなと同じようにくらしていけると思えます。障がいのある人たちもよりよい生活ができるように、一人でも多くの人たちを助けていきたいです。

このように、本当にそれで良いのかを考えながらいつも生活していきたいです。

特別賞 ● ときめき賞

友達の大切さ

長等小学校 六年 森 真 優

私は、小学校でたくさんのことを学びました。そのうちで一番大切なことは友達の大切さだと考えます。

私は低学年のときに、あまり友達のことを考えずに「自己中」なときがありました。それを数年間続いていると、どんどん友達が離れていってしまい、話しかけると少し嫌がられたり、登下校の友達がいなくなったりしました。その経験をもとに私は、友達の大切さに気付きました。

この頃から私は、相手の気持ちを考えることを意識しました。だからといって本音を絶対に言わない訳ではありません。みんなと一緒にいられる時間は「当たり前」ではないので、相手から話しかけてくれたことに、心から感謝をしようと思えました。そうすると、みんながたくさん話しかけてくれました。なので、みんなが私を大切にしてくれるように、相手の気持ちも受け入れて行動し、みんなが毎日笑顔でいられる学校生活にしたいと考えました。なので、みんなが笑顔になれるような人になりたいです。

黙過と無関心

東大津高等学校 三年 谷津夕子

「黙過」について、最近深く考える機会があった。辞書で引くと「黙って見逃すこと」という類の説明がなされている。場合によっては重い罪に問われる。ではなぜ「黙過」が罪とされるのだろうか。

それは、「黙過」が問題を知つていながらあえて声を上げずにいることだと把握されるからだろう。知つているにもかかわらず知らないふりをする行為であるからだ。では、問いたい。「無関心」は罪にならないのかを。「無関心」とは、知ろうとしない行為である。興味が無いから、自分には関係のないことだから知ろうとしないその態度に非は無いのだろうか。

イスラエル・パレスチナ間での紛争は今もなお続いている。ガザ地区への空襲で、市民の命は現在も危険な状態にある。「天井のない監獄」と呼ばれるガザ地区の住民の人権は常に脅かされている。パレスチナに関する報道を見ながら「辛い出来事だ」と思いついながらも、何事も無かったように日々学校に通つていた私は、ある意味「無関心」であると同時に「黙過」していたのかもしれない。遠い国の話だから実感が湧かなかつた、とは言えないくらい現代のメディアは進化し、鮮明に惨酷な紛争の現状を映し出している。

ある日、一つの詩と出会った。ガザ・イスラム大学の教授で、詩人でもあるリファト・アライル氏が昨年十一月に、自身のXのアカウントで投稿したものである。題は※「If I must die」。訳出は※「もし、私が死ななければならぬなら」である。彼はこの詩を発表した一ヶ月後にイスラエルの空爆により、彼の妻と三十人以上の家族と共に殺害された。その詩の中で彼は言う。

※「もし私が死ななければならぬなら あなたは生きなければならぬ わたしの物語を語るために」と。自身の死を予見したような言葉は「無関心」でいることの罪を訴えているのではないか。

遠くの国で起きている争いは長期化していくと、紛争による犠牲者の存在や起きていることへの危機感が薄れてしまう。しかしそれは現実であり、今この瞬間も進行している問題である。それに対して、日本に住む高校生に何かできることがあるのかというと、限りなく無いに等しいのかもしれない。高校生が世界の情勢に対してできることは、知ろうとすることである。それが一番近道で、忘れがちなことだと思う。学校では、何度も人権に関する講義の場が設けられている。それは私たちが様々な場所で起きる人権問題に関心を向けるきっかけを与えてくれていると私は捉えている。私たちが「無関心」でいることのないように、「無関心」でいたことを後悔することのないように。

人権の問題について、矛盾する表現であるが、無意識に「黙過」してしまうことは残念ながら大いにありうる。関心を持って向き合う姿勢で居続けたいと思う。

※引用

リファト・アライルさん詩 “If I must die”
 imagine_note (https://note.com/imagine_note/n/n1355e6d64d908)

※日本語訳

2024年10月13日(日) 21時 NHKスペシャル
 「If I must die ガザ絶望から生まれた詩」より

特選

いじめにつながる行動

藤尾小学校 四年 岡 部 咲 歩

いじめは、どこからがいじめだと思いますか。私は、一人の子が仲間はずれやいじられていいることからいじめにつながると思います。

クラスの子が、仲間はずれやいじられていると気付いた人が止めないといけません。止めなかったらいいじめになり、大ごとになるかもしれません。でも私は、止める勇気がなく、何もできませんでした。

私のクラスでは、前よりもみんな仲が良くなりましたが、気付いていたなら仲間はずれにされている人に声をかけたり、仲間はずれをしている人を止めたり、先生に相談したりすればよかったですと後悔しました。

どうしていじめがあるのだろう。いじめがなければ、みんなが幸せに生きていけるんじゃないか。中学生になってもいじめがあるということや、他にも色々考えました。私は、いじめをなくしたいです。でも、いじめを世界からなくすることはできませんが、一つできることがあります。それは、いじめをしている人を止めるということです。前の時は止められませんでした。今なら止められる気がします。

悪口を言っている人がいたら、正しいことを教えたり、いじめを少しずつへらしたりしたいです。

特選

はげまし

長等小学校 五年 服 部 壮 良

去年の冬、縄跳びの大会があった。順位は5位で、多く引っかけってしまった。その大会は、三か月ほどの努力がまった大会だった。だから、本当になみだが出るほどくやし、親にだきついた。母は、「調子が悪かっただけ。来年もあるからがんばろ。」と言ってくれた。その言葉で心に小さな明かりが灯った気がした。けれども、くやしい気持ちの方がもちろん強かった。心に灯った明かりは雨で消えてしまった。大会が終わり、帰っている時もその言葉が残っていた。心の雨が止み終わる時、また明かりが灯った気がした。そこで気持ちがとても軽くなった。自分も冷静になって、今回はしよがなかつたと思った。

親の言葉。たった一つの言葉で自分たちは気持ちを变えることができるかと分かった。良い意味でも、悪い意味でも。くやしい気持ちやおこる気持ちは中々もどらない。時間はかかるけど、自分、友だち、だれの言葉でも、はげますことは、気持ちを取れもどす力になるのだ。

これから私は、たった一つの言葉を、それだけでも、だれかおこっている人、くやしい気持ちの人、だれにでもかけてあげたい。だって、一つの言葉でもその人の助けになっっているから。この気持ちを大切に、わすれないでいたい。

無意識の差別に気付く

堅田中学校 一年 田 辺 紗 彩

「差別」と聞くと、意図的に人を傷つけたり、見下したりすることを思い浮かべるかもしれませんが、ですが、私たちが普段何気なく行う言動の中には、知らず知らずのうちに人を傷付けてしまう「無意識の差別」というものが存在するのです。

私はあるとき、学校の行事で、来てくれた子どもに渡すプレゼントを作っていました。作っている最中、友だちとの会話の中で、「男の子用に黒や青っぽいものを用意した方が良さそうだね」ということが出ました。その場ではあまり何も思いませんでしたが、後になって「男の子は黒や青が好き」というのは、性別の違いによる決めつけなのではないかと思いました。必ずしも男の子全員が黒や青を好きだとは限らないのに。私たちは知らないうちに「男だから」「女だから」という枠に様々なものを当てはめてしまっているのかもしれない。

以前、電車の中で高齢の女性に「おばあちゃん、席譲りましようか」と腰をかがめて視線を合わせて言っている人を見かけました。私は、席を譲るなんて優しい人だな、と思いました。その女性は明らかに嫌そうな表情です。そんな女性を見て私はあることに気付きました。高齢の方だからといって「おばあちゃん」と言ったり、腰をかがめてまで視線を合わせたりすることは、「見た感じ」からの決めつけではないかと。その行為は一見すると、

相手を思った優しいものに見えます。席を譲ろうとしたあの人も、善意からそのような言動をしたのでしょう。ですが、それをされた相手は高齢者扱いされているようだと不快になったのではないのでしょうか。私たちは、見た感じだけで相手を判断してしまうことがあるのだと気付きました。

無意識の差別は、悪意や自覚がなく気付きづらいため、正直なところ誰にでも起こりうることなのです。ですから、完全に避けることは難しいと思います。だからこそ本当に大切なのは、指摘されたり、自分で後になって「差別だったかもしれない」と気付いたりしたときにどうするかということです。自分の言動で誰かを傷付けてしまったのなら、自覚はなかった、善意からだった、と言い訳するのではなく、素直に受けとめる。そして、しっかりと学ぼうとすることが大切なのです。

人権を守るというのは、誰かを傷付けないようにすることだけでなく、自分自身の考え方を見つめ直すということでもあります。自分の良くない点に気付き、一人一人が少しずつでも行動を変えていく。それこそが、すべての人権が守られる世界への近道だと、私は思っています。

友達

田上中学校 一年 小 谷 紗也香

私が困ったときには、いつも「友達」という存在があった。相談をしたり、喜びや悲しみを分け合ったりするのも「友達」だった。

でも、私は最初から「友達」がいたわけではなかった。小学校に入学すると、周りは知らない人ばかりだった。最初は不安だったけれど、話をしたり遊んだりする「友達」が少しずつできてきた。

小学校五年生のときだった。私はいつも仲のよい四人で一緒にいた。でも、その中の一人が段々と学校に来られなくなった。最初は「風邪かな」と思っていた。ある日、親に聞いてみると、人間関係に不安をもちはじめ、学校に行けなくなってきたという。その子に連絡しても返事はなく、私たち三人は心配になった。何度連絡しても返事がないので、その子の親にも相談し、いつもの三人で様子を見に行くことにした。その子はとても元気そうに見えたけど、外に出ることができなと言った。あんなに外が好きだったのに……。人との関係でこれほど人は変わってしまうのかと思った。私たちはその後その子の家に通い続け、一緒に遊ぶことができるまでになった。

でも、教室でこんなことが言われているのを聞いてしまった。「あの子、最近学校来てないよね。」

「サボリ?」

なんでそんなことを言うのだろうと思った。学校に来られなく

なっただけから、その子は自分なりのペースで頑張っていた。また学校に行けるように、放課後に登校することもあった。だから、そんなことを聞いたときはとても嫌な気持ちになった。

六年生になっても、その子はまだ学校に来られなかった。それからまた時間が過ぎ、卒業式の一ヶ月前になった。

「学校に行きたい。」

「みんなと会って話をしたい。」

と、その子が言った。私たちはとても嬉しかった。人との関係で怖いと言っていた学校という場所が、その子がまた人と関わりたいと思える場所になったのだ。そのときは、まさか私たち三人の存在によって生まれた気持ちだとは思わなかった。

その後、登校したその子と別の教室で会ったり、給食と一緒に食べたりして、とうとう自分の教室に戻るときがきた。その子が教室に一歩足を踏み入れたとき、クラスのみんなもその子に会えてとても嬉しそうだった。

迎えた卒業式。その子と一緒に、みんなで式に出ることができた。私は思った。「友達」という存在が人との関わりを生み、「友達」という存在が互いの心の支えになるものだということ。

特選

ブラインドマラソンランナーについて

東大津高等学校 三年 高 井 花 怜

私はブラインドマラソンランナーについて知って、人と人が信頼し合うことの大切さを強く感じた。ブラインドマラソンとは、視覚に障がいのあるランナーが伴走者とロープでつながり、一緒に走る競技である。伴走者はランナーの目となり、方向や道の状況を声で伝える。二人は息を合わせて走らなければならない、そこには深い信頼関係が必要とされる。

この競技では、どちらか一方が主役ということではなく、伴走者が正確に指示を出さなければ危険が生まれ、ランナーがその声を信じなければ走ることはできない。お互いの努力と信頼がそろって初めて完走できるものだ。私は、ブラインドマラソンは走る姿が美しく、見ている人に勇気を与えてくれるなと思った。*近藤寛子さんの講演を聴いて初めてこのブラインドマラソンを知ったが、この競技の認知度が今よりも上がるといいなと思う。

しかし、同時に、この競技には課題も多いことを知った。伴走者の数が少ないことや、安全に練習できる場所が限られていることなどである。障がいのある人が安心して走れる環境がもっと整えば、挑戦する人も増えるのではないかと思う。スポーツは誰にとっても平等であるべきだと感じる。

ブラインドマラソンは、ただ速さを競うだけの競技ではない。信じることや支え合うことなど、走る姿には人のつながりが生む

力が表れている。私はこの競技について知り、講演を聴き、困難の中でも前を向き、共に走る姿勢の強さを知ることができた。

*近藤寛子さんプロフィール
日本ブラインドマラソン協会強化指定選手
リオパラリンピック5位入賞



詩

詩の部 講評

今年度の詩の部には、二、二、三、三、六、六の応募がありました。

小学校低学年や中学年では、学校生活や家族と過ごす時間を通して、友だちや家族の大切さ、その時の気持ちを素直に表現する作品が多く見られました。中には海外のいろいろな食べ方を学習したことを詩に表現している作品もみられました。

小学校高学年では、日常生活で感じたことやクラスの仲間との活動や自分にベクトルを向けた個性的な作品が印象に残りました。

全ての学年を通して「言葉」や「あいさつ」についての作品が多く、コミュニケーションの大切さについて改めて考えさせられました。

作品の中には、人権学習の取り組みをきっかけに「自分自身から変わっていききたい」「前向きに生きていききたい」という思いが伝わってくるものがたくさんありました。そんな作品を通して、多くの人々の行動が少しでも変われることを期待しています。

《特別賞》

ほのぼの賞

「みんなやさしいともだち」

仰木小学校

一年 西村 柚奏

すこやか賞

「しっばいしても」

南郷小学校

三年 中川 來音

ふれあい賞

「みんなとわたしのえがお」

瀬田小学校

三年 芦田 呼春

ときめき賞

「ありがとうみんな」

瀬田北小学校

六年 正木 滯音

さわやか賞

「一歩ずつ」

滋賀大学教育学部附属小学校

六年 佐々木 絆桜

△以上 特別賞 五点▽

《特選》

「大すき」

滋賀大学教育学部附属小学校

一年 白井 美緒

「ぼくたちのえ顔」

中央小学校

三年 中畷 紘花

「思いやり」

和邇小学校

五年 多賀 沙良

「輝く星」

富士見小学校

五年 穂積 沙良

「生きる命・心」

南郷小学校

五年 松田 凜音

△以上 特選 五点▽

《佳作》

「大好きな先生」

晴嵐小学校

二年 花田 陽南

「友だちっていいな」

石山小学校

二年 兎玉 羽心

「あたたかくてやさしいともだち」

中央小学校

三年 松下 七夏

「好きな言葉」

青山小学校

三年 山田 瑠葵也

「心の空」

瀬田小学校

三年 中谷 雅

「地球」

瀬田北小学校

三年 多胡 萌花

「食べ方なんてなんでもいい」

瀬田東小学校

四年 岡本 美桜

「勝負」

富士見小学校

五年 齋藤 桃芭

「ぬくもり」

南郷小学校

五年 中下 莉沙

「きれいなパズル」

日吉台小学校

六年 村澤 琴羽

△以上 佳作 十点▽

特別賞 ● ほのぼの賞

みんなやさしいともだち

仰木小学校 一年 西村 柚 奏

ひとりじゃないよ
ともだちみんなだいすきだよ
ずっといっしょだよ
みんなやさしいともだちだよ
ひとりにいるともだちをたすけて
なかよくなるよう
なかよくあそぼう
みんなやさしいともだち
みんなだいすきだよ

特別賞 ● すこやか賞

しっぴいんも

南郷小学校 三年 中川 來 音

みんなで心を合わせてジャンプしよう
しっぴいしてもだいじょうぶ
そのままもう一どしたらいい
もうすぐ自分の番
心がわくわくドキドキする
自分のときがきた
速くできた
うれしかった
一位をとれてうれしかった

特別賞 ● ふれあい賞

みんなわたしのえがお

瀬田小学校 三年 芦 田 呼 春

みんながね
わたしのえがおをみると
みんなが、えがおになったんだ
わたしがかなしいときでもね
みんなのえがおをみれば、ハッピーで
わたしも、えがおになれちゃうの
えがおって
みんなを元気づけるまほうだね
せかいは、えがおでいっぱいだ



特別賞 ● ときめき賞

ありがとうみんな

瀬田北小学校 六年 正 木 滯 音

最後の運動会に出していない
組体操もリレーも
足を怪我したから
土で汚れた体操服も
しめったタオルも
乾かない
運動会の日
みんなに手紙を書いた
運動会が終わったら
みんなかけ寄ってきて
「手紙ありがとう！」
「うれしかった！」
みんな笑顔で言ってくれた
やっと乾いた
体操服を着て
私も
「ありがとう」

特別賞 ● さわやか賞

一歩ずつ

滋賀大学教育学部附属小学校 六年 佐々木 絆桜

前向きに生きること

それは過去をひきずらずに未来へ向かって歩いているということ

今を生きる自分と向き合っているということ

だから、つまづく日もあるし、うまく進めない日も必ずある

でも、大切なのはそこから変わる小さいようで大事な一歩

きつと生きることによって大きな一歩となる

そして、その小さい一歩が大きな一歩に変わったとき

過去の自分をきつとほこることができるだろう

今日もその日に向かって

一歩、また一歩

特選

大すき

滋賀大学教育学部附属小学校

一年 白 井 美 緒

みんな大すき

おかあさん大すき

みんなとあそぶの大すき

おとうさん大すき

じぶん大すき

おばあちゃん大すき

せかいのみんな大すき

おじいちゃん大すき

みんなのえがおが大すき

特選

ぼくたちのえ顔

中央小学校 三年 中 寫 紘 花

ぼくがわらうと

その日から

君もわらう

ずっと

君がわらうと

わらってばかり

ぼくもわらう

君のえ顔が

なかよくなつた

ぼくはすき

特選

思いやり

和邇小学校 五年 多賀 沙良

思いやりってあたたかい

心がほかほかする

こたつの中に入っているみたい

身体全体につたわっているような温もり

みんなが思いやりで満たされるといいな

思いやりって不思議だな

不思議に心があたたかくなってくる

思いやりをしたら思いやりの心が育つんだ

だからほかほかするんだな

みんなの思いやりの心が育つといいな

特選

輝く星

富士見小学校 五年 穂積 沙良

一つの星が光っているのも綺麗だけど

たくさん星が集まると

もっと綺麗で輝く

一人の人間が頑張っているのもすごいけど

たくさん人間が力を合わせて

一つになっていると

もっとすごくなって輝く

たくさん星が集まっていると

とても綺麗で輝いている

たくさん人間が力を合わせて

一つとなっていると

何よりも輝いている

特選

生きる命・心

南郷小学校 五年 松田 凜音

生きる人は命がある

心の中でドクドク、バクバク

これが生きてるしょうこ

楽しいことがあると、うきうき

悲しいことがあると、しくしく

感情があふれでる

これが生きてるしょうこ

生きる人は心がある

おもしろいと思う心

涙があふれでるほどつらい心

大切な人を想う幸せな心

みんなあたたかい心をもっている

これも生きてるしょうこ

その他

その他の部 講評

その他の部では、幼稚園・保育園・子ども園、小学校、高等学校で合わせて一〇〇点近くの応募があり、およそ一、五〇〇人の方々が制作に取り組みました。

4校で協力して制作された合同作品、一人ひとりの思いやメッセージを集めた作品、毛筆を使った作品等、趣向を凝らした取り組みが多くみられました。また、高等学校からは部活動や委員会活動で取り組んだ作品等、多様な応募がありました。色鮮やかな作品が多く、大変温かい気持ちで審査をさせていただきました。

友だちのことや思いやりをテーマに制作された作品が多く、各校園で「人とのつながり」を大切にしながら、日々を過ごされていることが伝わってきました。作品の制作を通して、学級や学年、学校の雰囲気さらに良くなり、仲間との絆が今よりもっと深まることを願っています。

《特別賞》



【ほのぼの賞】

第1ブロック小松・木戸・和邇・小野小学校 共同作品
「夢 ～みんながって みんないい～」



【すこやか賞】

瀬田小学校 3年4組
「しんゆう」

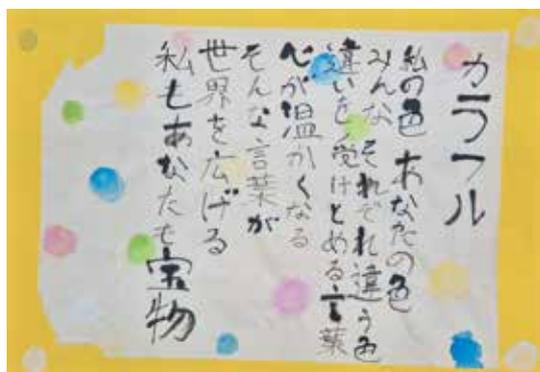
《特選》



小松小学校 2年A組
「咲かせよう やさしさいっぱい 思いやりの花」



石山小学校 5年 チーム5縁
「一人一人の花が咲く ～ほくらいろ わたいろ じぶんいろ～」



富士見小学校 6年 山田 怜奈
「カラフル」

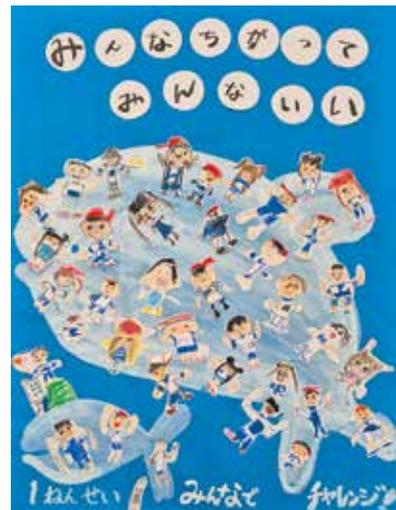
《 佳 作 》



滋賀大学教育学部附属小学校 1年い組
「えがおあふれる 1ねんいぐみゆめ村」



仰木の里東幼稚園 5歳児 こあら組
「ハッピースマイル ～笑顔の花を咲かせよう～」



田上小学校 1年
「みんながって みんないい」



木戸小学校 2年A組
「自分の気持ちをつたえ合おう」



和邇小学校 3年B組
「思いやりのひまわり」



小松小学校 6年A組
「6A名言集」



日吉台小学校 6年 有木 華美
「笑顔」



瀬田北小学校 6年 山中 菜結
「みんな仲間」



大津商業高等学校 3年 書道部
「愛」

第49回「わたしと人権」作品 審査結果

人権を守る大津市民の会

1 応募状況

保育園・幼稚園・こども園	小学校	中学校	高等学校	一般
34園	38校	19校	6校	45点

2 応募・推薦点数

	作文の部		詩の部		標語の部		ポスターの部		その他の部		合計	
	応募	推薦	応募	推薦	応募	推薦	応募	推薦	応募	推薦	応募	推薦
保幼小園							1,929	318	105	5	2,034	323
小学校	683	53	1,341	141	12,287	362	2,608	182	1,330	73	18,249	811
中学校	1,312	11	894	1	8,430	170	897	3	0	0	11,533	185
高等学校	342	5	0	0	36	15	4	2	45	7	427	29
一般	2	2	1	1	42	42	0	0	0	0	45	45
合計	2,339	71	2,236	143	20,795	589	5,438	505	1,480	85	32,288	1,393

3 入賞点数

入賞者数	作文の部			詩の部			標語の部			ポスターの部			その他の部			合計		
	特別賞	特選	佳作	特別賞	特選	佳作	特別賞	特選	佳作	特別賞	特選	佳作	特別賞	特選	佳作	特別賞	特選	佳作
保幼小園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	24	0	0	1	2	3	25
小学校	4	2	5	5	5	10	3	6	32	3	6	26	2	3	7	17	22	80
中学校	0	2	0	0	0	0	2	3	17	0	0	0	0	0	0	2	5	17
高等学校	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	1	2	4
一般	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	3
合計	5	5	5	5	5	10	5	10	55	5	10	50	2	3	9	22	33	129

特別賞					特選	佳作	合計
ほのほの賞	すこやか賞	ふれあい賞	ときめき賞	さわやか賞			
5	5	4	4	4	33	129	184

あ と が き

「人権を守る大津市民の会」では、人権が大切にされ、すべての人が「大津に住んで良かった」と思えるようなまちづくりを目指し、人権啓発活動を行っております。

第49回目となる今回の作品募集においても、学校園や一般の市民の方々から3万点を超える作品のご応募をいただきました。この取組は12月4日から10日までの人権週間に向けて、学校園における人権学習の一環として定着しています。

また、市内3か所で実施している作品展においては多くの方にご来場いただいております。親子で来場し作品の隣でピースサインをつくって記念撮影をしたり、「孫のために」と写真を撮りに来られたりと、今年度も心温まる場面が見られました。アンケートには、「いつも心を動かすよい作品を楽しみに、この季節を迎えます。」「たくさんの人に目にしてもらって、考えるきっかけになったら世の中も少しずつ変わっていきますね。」といった意見がありました。

あらゆる人々の人権が尊重される社会を目指し、本冊子を通して「人権」についての関心と理解が深まり、より良い社会を築いていく一助となれば幸いです。

結びになりますが、冊子の作成にあたり、作品募集から審査、編集まで多大なるご協力とご理解をいただきました皆様方に対し、心から感謝申し上げます。

第49回「わたしと人権」作品審査委員会

■審査委員長

中村 克己 (人権を守る大津市民の会副会長・大津市人推協連副会長)

■審査委員

石田 弥生 (大津市地域女性団体連合会)

柴原 明日香 (大津市教育委員会)

岩井 大 (大津市教育委員会)

吹田 吉司 (大津市教育委員会)

大柿 健 (大津市教育委員会)

高倉 智子 (大津市教育委員会)

岡本 幸一郎 (大津市教育委員会)

高山 邦久 (大津市社会福祉協議会)

奥村 将太 (大津市教職員組合)

辻田 正雄 (大津市子ども会育成連合会)

音野 潤子 (大津市地域女性団体連合会)

辻田 良雄 (大津市人権擁護委員の会)

亀苔 丈夫 (「人権を守る大津市民の会」

寺田 佳弘 (大津市人権擁護推進員協議会)

個人会員)

橋口 仁志 (滋賀県人権教育大津研究会)

栢口 泰至 (大津市教育委員会)

橋本 洋平 (大津市)

清河 紗千 (大津市職員労働組合連合会)

早藤 可奈子 (大津市PTA連合会)

救仁郷 節夫 (大津地区労働者福祉協議会)

平松 靖之 (大津市教育委員会)

上坂 操 (大津市「人権・生涯」

福岡 恭裕 (「人権を守る大津市民の会」

学習推進協議会連合会)

個人会員)

小鴨 一磨 (大津市教育委員会)

目秦 光芳 (大津市教育委員会)

澤村 理生 (大津市教育委員会)

龍田 裕子 (大津市教育委員会)

第49回「わたしと人権」編集委員会

■編集委員

石田 弥生 (大津市地域女性団体連合会)

橋本 洋平 (大津市)

亀苔 丈夫 (「人権を守る大津市民の会」

福岡 恭裕 (「人権を守る大津市民の会」

個人会員)

個人会員)

清河 紗千 (大津市職員労働組合連合会)

松崎 有純 (大津市教職員組合)

上坂 操 (大津市「人権・生涯」

学習推進協議会連合会)

■顧問

内川 直樹 (大津市)

清水 美幸 (大津市教育委員会)

2025年度 (令和7年度)

第49回 人権標語・ポスター・作文・詩等作品集

「わたしと人権」

発行 人権を守る大津市民の会
2026年 (令和8年) 2月

事務局所在地 大津市教育委員会事務局 生涯学習課内
大津市御陵町3番1号
Tel : (077) 528 - 2635
Fax : (077) 523 - 5735
E-mail : otsu2403@city.otsu.lg.jp

表紙絵 その他の部 特別賞(ほのぼの賞)
第1ブロック小松・木戸・和邇・小野小学校 共同作品

「人権を守る大津市民の会」構成団体

滋賀県人権教育大津研究会
大津市地域女性団体連合会
大津市民生委員児童委員協議会連合会
大津市社会福祉協議会
大津市子ども会育成連合会
大津市教職員組合
全教大津教職員組合
大津市職員労働組合連合会
大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会
大津市自治連合会
大津市PTA連合会
大津市老人クラブ連合会
大津地区労働者福祉協議会
大津商工会議所
大津北商工会
瀬田商工会
大津市勤労者互助会
大津市身体障害者更生会
大津市障害児者と支える人の会
大津市人権擁護委員の会
大津市人権擁護推進員協議会
大津市
大津市教育委員会
＜順不同＞